

診療科目 ● 産婦人科学

プログラム責任者：平原 史樹

附属病院	産婦人科
主任教授	平原 史樹（附属病院長）
教授（がん総合医学科）	宮城 悦子（産婦人科部長）
准教授	佐藤 美紀子（附属病院化学療法センター長）
講師	小川 幸
助教	中村 朋美、齋藤 圭介、松永 竜也、田野島 美城
附属市民総合医療センター	母子医療センター 産科
講師	青木 茂（総合周産期母子医療センター担当部長）
助教	笠井 絢子、葛西 路、榎本 紀美子、長谷川 良実
附属市民総合医療センター	婦人科
准教授	榎原 秀也（婦人科部長）
助教	岡田 有紀子、北川 雅一、古野 敦子
附属市民総合医療センター	生殖医療センター
講師	村瀬 真理子（生殖医療センター担当部長）
助教	香川 愛子、竹島 和美

本プログラムの特徴

初期研修から後期研修、さらにサブスペシャリティーの高度専門医育成まで一貫した、産婦人科医師の総合的育成を目指したプログラムです。

周産期の医療現場においては迅速な、そして高度な診断対応が患者救命に不可欠です。そのために必要な知識と、各種手技を学ぶために指導体制を整え、リスクを最小限とし実地の医療を指導しております。

婦人科腫瘍分野は、各種化学療法、放射線療法の治療についての修練、手術は広汎子宮全摘を含めた手術技術の修得まで出来るよう指導します。

月経困難症、更年期など多岐にわたる女性のヘルスケアに対する診断、治療の修得、顕微授精や凍結胚移植まで含めた不妊治療に関する指導も実施しております。

腹腔鏡手術、子宮鏡手術などの各種低侵襲手術も積極的に取り組んでおります。

3年間の後期研修医期間に、産科、婦人科各種の専門領域を一通り習得し、さらに次のステップとしての専門医師資格認定につなげる方針です。

目 標

協力病院における common disease を中心とした研修と、大学病院における高度専門医療を中心とした研修を交互に行うことにより産婦人科専門医の資格を取得することを目標とします。

総合、救急周産期の診断・治療を習得する、不妊、生殖補助医療に関する診断・治療を習得する、緩和ケアを含む婦人科腫瘍の診断・治療を習得する、女性のヘルスケアに関する診断・治療を習得する医の倫理および安全管理に基づいた医療を行う、などの到達目標を設定しております。

目標とする学会認定専門資格

産婦人科専門医	日本周産期新生児学会（母体・胎児）専門医
婦人科腫瘍専門医	臨床遺伝専門医
生殖医療専門医	婦人科内視鏡技術認定医
がん治療認定医	細胞診専門医
産婦人科内分泌専門医	乳房疾患認定医

主な協力病院

横浜市立市民病院、横浜南共済病院、済生会横浜市南部病院、横浜労災病院、神奈川県子ども医療センター、神奈川県立がんセンター、藤沢市民病院、小田原市立病院、大和市立病院、横須賀共済病院、横浜医療センター

診療科のホームページ URL

http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~obgyn/
 http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~urabosi/
 http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~urafujin/

担当者・連絡先

齋藤 圭介
 saitouk88@live.com

診療科の実績（2014年）

附属病院産婦人科

ベッド数 47床 常勤医師 21人 研修医年間受け入れ数 12人
 分娩総数 442 帝王切開 99 周産期救急応需数 22 多胎 6
 広汎子宮全摘 10 準広汎子宮全摘 22 腹式単純子宮全摘 58 子宮付属器悪性腫瘍手術 43
 腹腔鏡手術 171 レゼクトスコープ 29 円錐切除術 76

附属市民総合医療センター総合周産期母子医療センター

ベッド数 46床 常勤医師 15人 初期研修医受け入れ数 30人
 分娩総数 1,248
 （帝王切開 334 鉗子分娩 41 早産 170 多胎 51）
 周産期救急応需数 120

附属市民総合医療センター婦人科

ベッド数 13床 常勤医師数 8人 研修医師受け入れ 1～2人（月）
 婦人科手術件数 574 腹腔鏡手術 417 婦人科悪性腫瘍手術 52

附属市民総合医療センター生殖医療センター

常勤医師数 3人
 採卵 228周期（顕微授精 110 凍結融解 110周期）

指導医から一言

- | | | | |
|---------------------------|----------|------|--------|
| 附属病院産婦人科 | 医学部産婦人科学 | 教授 | 平原 史樹 |
| 附属市民総合医療センター総合周産期母子医療センター | | 担当部長 | 青木 茂 |
| 附属市民総合医療センター婦人科 | | 部長 | 榎原 秀也 |
| 附属市民総合医療センター生殖医療センター | | 担当部長 | 村瀬 真理子 |
- 産婦人科医療・医学を皆さんとともに支え、発展させていきませんか？ 産婦人科医師不足によりやく国も地域も本気になって支援を開始しました。勤務・報酬環境への支援、医療訴訟に対して適正な医療をしている医師を守る無過失補償制度も実施開始しております。女性医師には復職支援のための制度など育児支援がととのっています。
 - 私たちはまず安全に、そして皆で楽しく、充実感と手ごたえのある修練環境をつくっています。指導医から護られ、かつ厳しく育てられた人材が次の人材を護りながらまた専門医に育てていく。その中で先端医療を創り、地域医療に貢献できる医師集団、人材育成をしていくのが私たちの使命です。
 - 11の教育指導病院が皆さんを育てます。
 - ぜひ我々とともに産婦人科学、産婦人科医療のために頑張ってくれる人を期待しています。

シニアレジデントからのメッセージ

シニアレジデント2年目の中西沙由理です。
 産婦人科の診療は良性疾患から悪性疾患まで幅広く毎日新しいことを学ぶことができます。また、大学病院では稀な疾患を経験することも多く、レジデントの人数も多く、皆で切磋琢磨しながら成長することのできる環境が用意されています。
 ぜひ横浜市立大学産婦人科学教室へお越しください。（平成24年卒、卒後4年目 中西沙由理）